

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2994900047		
法人名	社会福祉法人 室生会		
事業所名	グループホーム愛		
所在地	奈良県宇陀市室生大野1685-2		
自己評価作成日	平成30年3月9日	評価結果市町村受理日	平成30年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成30年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の徒歩圏内に、弥勒磨崖仏で有名な大野寺があり、桜や紅葉の季節はもちろんのこと、日々の散歩や外出を通して季節のうつろいを感じて頂いている。近隣には女人高野で知られる室生寺があり、歴史と自然に囲まれた環境にある。また、近鉄室生口大野駅から徒歩5分の距離にあり、ご家族やご友人の方などの訪問がし易い環境にある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は最寄りの駅にほど近く、すぐ側には対岸の摩崖仏とされ桜で有名な大野寺もあり、宇陀川沿いの自然豊かな環境の中に立地しています。事業所内は木が多く使われ温もりを感じると共に適度な光も差し込み、居間の天井も吹き抜けで広く、ゆったりとした共用空間が確保されています。また、壁には適度な装飾など五感刺激への配慮もみられ、利用者にとっては居心地よく過ごせる場となっています。職員は事業所の理念に基づき、本人が楽しく安心して日常生活が送れるような暮らしの支援を常に追い求め、日々のケアに取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を設定し、見える場所に掲示して、理念に沿った介護ができるように意識づけている。	事業所の理念は事務所と会議室に掲示されており、職員間で理念を共有しながらその人らしい暮らしが続けられるように支援されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回して頂き、地域のイベントや奉仕作業に参加させて頂いている。	自治会に加入され、奉仕作業や夏祭りなどの地域行事に参加して、近隣住民とのふれあう機会を多く作っておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の地域事務所にパンフレットを置くなどしている。また、奉仕作業の際にも地域の方へ施設のご紹介をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、介護相談員、市介護福祉課、市医療介護あんしんセンター等多方面からのご意見を頂けるよう実施している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、各方面から出された意見や要望については検討を加えながらサービスの向上に繋がられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの受け入れや、介護保険に関する問い合わせなどを随時行っている。	市の担当者とはグループホームの受け入れや更新時の他、運営推進会議でも情報交換を行い、協力体制を構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則禁止している。また、ベッド柵などで、拘束にならないように配慮している。	毎月の勉強会を通して身体拘束の弊害を正しく理解し、共通認識のもと自由な暮らしの支援に努めておられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に身体の確認を行い、外傷がないか確認している。また、虐待に関する職員教育も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	宇陀市多職種連携の会に参加し、介護予防・日常生活支援総合事業の概要について説明を受けた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険の改定や、サービス料金の変更についての説明を行い、文書と捺印によって同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン交付時や面会時にご意見を伺ったり、入居者の状態について相談を行い、ケアプランの作成に反映させている。	ケアプラン交付時や受診、面会時に意見・要望等を聞く機会を設け、検討を加えながら運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に話し合いの場を設けて、意見交換を行っている。また、参加できない職員のために、意見箱を設けている。	月2回のミーティングの中で職員の意見・要望を聞いておられます。また、意見箱を設置して参加できない職員やその他の事項の把握に努めておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員処遇改善加算を給与に反映している。また、資格に応じた手当も支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設け、対象者のレベルに応じて受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇陀市多職種連携の会に参加し、情報収集、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、入居前の生活環境を考慮し、本人の希望する生活を伺う機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族からご本人のとの関係や、問題について伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接や入居の際、ご本人およびご家族のご意向を伺い、他の希望されるサービスについての説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的に、外泊や面会に制限は設けていない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活を通して、職員と一緒に掃除や、洗濯、買い物、レクリエーションを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加して頂いたり、ご家族の了承を得て、馴染みの人や親類の方との面会を自由にして頂いている。	馴染みの人や親類の方の面会もあり、地域のイベントでも交流が図られておられます。外に出かける場合は基本的には家族が対応されていますが、職員の支援で出かけることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	野菜作りや花の手入れ、イベント時のクッキングなどで共同作業が行える機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、新たに入居された施設等で引き続き穏やかに生活ができるようケアについての相談を受けている。また、医療機関退院後の入居についても検討している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活において、要望や思いなど、本人からヒアリングし、できるだけ実現できるように検討している。	普段の関わりの中での会話や表情などから思いや意向を把握され、意思疎通が困難な方については選択肢を設けるなど工夫しながら対応されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、担当ケアマネや家族から、ヒアリングを通して、家族を含む、それまでの暮らしと、生活環境について確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者に担当者をおき、各種記録などから日常生活をモニタリングしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や本人の意向を伺い、ケアプランを作成している。	6ヶ月に一度、ミーティングで意見を出し合い、ケアマネジャーがまとめ、利用者の実情にあったものを家族・関係者が確認して介護計画を作成されています。また、変更についても臨機応変に対応されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態が変化したり、新しい要望などが発生した場合は、ご家族と相談しながらケアプランを修正、反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活品の購入をはじめ、眼鏡、時計の修理や法事の準備の支援など、入居者やご家族の要望にできるだけ対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容、内科、歯科、小売店など地域のサービスを利用している。また、地元小学校の地域学習の一環で小学生との交流会を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者ごとのかかりつけ医に往診、もしくは、受診していただくようにしている。	従前のかかりつけ医を希望される場合は事業所が情報提供を行い、家族対応となっておりますが、可能な場合は職員が受診支援を行い、結果を家族に報告されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の状態に変化のある時は、かかりつけの医療機関に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、介護サマリーを作成し情報を伝えと共に、かかりつけ医に連絡するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際について、家人と相談しグループホームでの対応を検討している。	重度化した場合は、その都度、家族・関係者や協力医療機関と対応について話し合いながら方針を決めておられます。看取りについては、本人や家族の意向に沿うよう前向きに検討されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応マニュアルを作成し、対応を手順化している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域防災説明会に参加し、避難場所について確認した。また、市危機管理課の指導により防災無線の設置を行い、災害対策マニュアルを作成した。	災害対策マニュアルを作成して、水害対策も想定した避難訓練を年2回程度実施されています。	災害時は事業所だけの対応では限界がありますので、事業所独自の避難訓練での課題等を話し合いながら、消防署や地域住民の参加及び協力体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	孤立したり、不安や興奮状態に陥らないよう、声かけを行っている。	一人ひとりの人格を尊重しながら、プライバシーや個人情報保護について、取り扱いと管理を徹底されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な紹介や提案を行い、また、自己決定しやすいようにアドバイスをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活であるが、個々の生活要望が反映できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めやパーマなどそれぞれおしゃれを楽しんで頂いている。衣類等必要に応じて買い物の支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳やテーブル拭き、おぼん拭きなどを手伝って頂いている。また、定期的に昼食の調理介助を行っていただいている。	献立や食材は外部委託をされていますが、食事への関心を引き起こす工夫として、おやつ作りや行事食の手伝いなどを取り入れ、利用者と職員は毎食同じテーブルを囲んで同じものを楽しく食されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、全員に配茶を行っている。好き嫌いなどを把握して食べやすい食事を検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	上手に磨けない方にも、食後のうがい、磨きやすいブラシの選定、歯磨き介助を行っている。義歯の洗浄も毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの入居者の状態に合わせて、リハビリパンツや夜間のトイレの利用を促し、トイレに座って排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本に、チェックシートで利用者の習慣や排泄パターンを把握しながら個別に支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックやヒアリングから、便秘を把握し、入居者ごとに頓服薬や浣腸などで快適な排便ができるよう支援している。また、体操や運動も奨励している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤などで入浴を楽しんで頂いたり、皮膚疾患がある方には保湿剤を使用頂くなどし、個別に対応している。	入浴は3日に1回ですが、希望される場合はいつでも入浴できる支援体制を取られています。また、浴室にはリフトの機械浴設備も設置して、利用者の身体機能の低下にも配慮されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう、照明の明るさ、静かで落ち着いた雰囲気にするなどの環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のご利用者の薬は、院外処方により薬剤師が管理し、一包化している。また、入居者の状態に応じて医師や薬剤師に相談している。配薬チェック表を作成し、確実に服薬できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で楽しみが持てるよう、個人で望まれるものを提供している。また、新たに楽しみを作れるように検討している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節の外出や散歩などの支援を行っている。また、ご家族との外出、外泊も奨励している。その際はお薬、尿とりパッド等必要物品を準備している。	季節ごとの外出や日常的な散歩、買物などの支援の他、月に1回の音楽リハビリにも参加支援をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	条件つきでご家族の了解のもと、希望される方には、少額の金銭を自分で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などのやり取りは自由にして[頂いている。また、手紙を読んだり、代筆なども必要に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座席位置を調整して負担のないよう調整している。また、季節の草花を飾り、季節感を味わって頂いている。	館内は清潔感に溢れ、居間の天井も吹抜で広く、ゆったりとした共用空間となっています。また、壁には適度な装飾で五感刺激をはかり、落ち着いた雰囲気を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置などを検討し、ご利用者同士の交流がしやすいよう配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご自宅で慣れ親しんだ日用品を持ち込んで頂けるようにしている。また、家具類も使いやすい配置を自由にして頂いている。	居室にはベッドとクローゼットが備え付けられ、利用者の慣れ親しんだ日用品も配置され、居心地よく生活しやすい部屋となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できないから」、「わからないから」、しないのではなく、負担にならないよう「できるようになるか」、「わかるようになるか」を考慮しながら支援している。		